
◆ 目次 ◆

- 1 齊藤純在モンリオール日本国総領事挨拶
- 2 5 月及び 6 月の休館日
- 3 領事窓口時間等について
- 4 領事だより
 - (1) 日本の水際措置の終了について（4 月 29 日から）
 - (2) 改正旅券法令の施行に伴う旅券手続きの変更点概要（3 月 27 日から）
 - (3) 領事出張サービス実施予定のお知らせ（NB 州及び PEI 州）
 - (4) 子どもクラブからのお知らせ
 - (5) モンリオール日本語センターからのお知らせ
- 5 広報・文化だより
- 6 当館管轄 5 州の政治
- 7 当館管轄 5 州の経済

* * * * *

1 齊藤純在モンリオール日本国総領事挨拶

皆さまこんにちは。

連休が明けて、寒さ（庭いじりをする方にとっては霜・・・）への警戒もそろそろ解いてよい頃でしょうか。モンリオール市内には観光バスも見かけるようになり、いよいよ観光シーズン到来のようです。今年の夏はコロナ前を超える勢いで観光客が押し寄せる見込みだとニュースで言っていました。モンリオールは 7～8 割が米国からだそうで、F1GP やジャズフェスティバルに大挙してやってくるのでしょうか。観光と言えば、先月あたりからやたらと国内各州や町、さらには米国東海岸の一部の州の観光 CM をテレビで見かけるようになりました。いずれも短編ながらも行ってみたいくなるような魅力的なものです。日本でそういう CM 見たかなあ・・・とふと思いました、JR はよく流していましたね。

先日公邸の近くの森を雪が完全に溶けた後初めて散策しました。4 月初めの雨氷の被害が見るからに甚大で、あちこちに倒木や折れた枝が転がっていて痛々しかったです。これも森の新陳代謝の一環と言えなくもないのですが、住宅街ではすべて片付けられて概ね以前の様相を取り戻しているだけにギャップに驚きました。そして道路も家もどこもかしこも工事です・・・。道路にはあちこちでオレンジと白のコーンが立っていますね。公邸の近くの、昨年雪がない間ずっと工事をしていて雪が降る直前によく完成した道路にもまた穴を開けています。すぐ近くの邸宅ではなんとプ

ール設置工事が始まり、昨年は道路工事でずっと我慢していた騒音が別の形で朝早くから迫ってきて正直ゲンナリです。

各種行事が目白押しで、特に5月はアジア月間ということで日本関連を含め様々なアジアにまつわる催しが連日開催されていて、楽しく忙しくしています。これまで当館の「レーダー」では捉え切れなかった日本に関連した多くの事業者、芸術家、アスリートの方々との出会いがあり、当地にて日本を代表している一員としては大変頼もしくまた心強いです。そうした中でも特に日本の「食」への関心は高まる一方です。着任以来あまり食べ歩きはしていませんが、これまで世界各国に駐在したり出張や旅行で訪れてそれなりにいろいろな食文化に触れています。当地に限らず、レストランに入って懐かしの各国料理をメニューに見つけて喜んで注文してみると、想像と違う品が出てくることが結構あります。私としてはその料理の本場で食べた味が懐かしくて注文するのですが、多くは地元風にアレンジされていたり、こうした方がおいしいだろうとの善意(?)で手が加えられています。かなりがっかりと言わざるを得ません……。その意味では、世界各国のお店で提供される sushi も、日本で食べたたとえば江戸前の鮎とはだいぶ違うものが出てくることがままありますが、これは鮎ではなく sushi なのだ、と思って地元の人たちがどういうものを好んで食べているのかを知る機会になっています。翻って日本でよく出る納豆パスタなど、イタリア人の目にどう映るのか聞いてみたい気がします。

アジア月間のとある行事に出て気づいたのは、いわゆるアジアン・ヘイトがいまだに根強いという認識です。スピーチをする議員や政府関係者が、アジアン・ヘイトを撲滅しなくてはならない、と力強く語るのは本来悲しむべき事態です。総領事館としても引き続き在留邦人の皆さまへの注意喚起を行い、必要に応じて関係当局への働きかけを行って参ります。ヘイトかなと思う事案を見聞きしたら、総領事館にも一報願えると助かります。

比較的はっきりとした四季があり、昔から季節の節目や行事を大切にしてきた日本人として、ここでの仕事においてもこの点に意を用いています。こどもの日にかけて、今年も公邸前のポールに日の丸とともに鯉たちを泳がせていたのですが、晴れた日には道行く人が写真を撮っていました。日本を感じてもらえたものと思います。公邸のお客様にお出しする料理にもできるだけ旬の素材を使うようにしていて、今ならオマール海老は言うまでもなく、こごみ(Tête de violon, Fiddlehead)や筍も好評をいただいています。

総領事館には人事異動に特段「シーズン」はないのですが、最近数人入れ替わり、ついに東京から来ている館員については gender parity を達成して男女同数となりました。まことに喜ばしいことで、この面で特に進んでいるカナダにおいてそれが成ったことで、ようやく少しは胸を張れる状況に辿り着きました。新たなメンバーともども

一層職務に精進して参ります。

それでは、どこへ行くか、何をするか、迷うほどの選択肢が出てきたこれからの季節を皆さまが楽しめることをお祈りしています。

2 5月及び6月の休館日

●6月23日（金）Quebec National Holiday の振替休日

●毎週土日

3 領事窓口時間等について

（1）当館の開館時間

以下の URL をクリックするとご確認いただけます。手続きの内容によって時間が異なりますので、ご注意ください。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/office.html#section3

（2）一部の取り扱いにおける予約制

（i）対象となる取り扱い

- ・在留証明の申請
- ・署名証明の申請
- ・警察証明の申請
- ・戸籍国籍関係の届出

（ii）予約方法

当館領事班に、Eメールまたは電話でご連絡をお願いします。

【Eメールアドレス】 consul@mt.mofa.go.jp

【電話番号】 514-866-3429

4 領事だより

（1）日本の水際措置の終了について（4月29日から）

- ・日本時間4月29日0時をもって、「出国72時間以内に受けた検査の陰性証明書」、「ワクチン接種証明書（3回）」のいずれも提示不要となりました。

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcwideareaspecificinfo_20230022.html

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/coronavirus_jp.html

（2）改正旅券法令の施行に伴う旅券手続きの変更点概要（3月27日から）

●オンライン申請の開始

(i) 2023 年 3 月 27 日から、旅券の発給申請手続きがオンライン化されています。

(ii) オンライン申請の場合、

・戸籍謄本提出の省略が認められる切替申請は、申請時に在外公館の窓口へ出向く必要がありません（旅券の受け取りは、これまで通り窓口での対応となります。受け取る際は、必ず前回の旅券をお持ちください）。

・新規申請の場合や、現在お持ちの旅券面の記載事項を変更する場合は、戸籍謄本の提出が必要になります。窓口での提出、または、書留郵便やそれに準ずるものであれば郵送で提出することもできます。

(iii) 日本国外居住者の皆様は、オンライン在留届（ORR ネット）で在留届を提出した上で、在留邦人用旅券申請スマホアプリを通じてオンライン申請が可能となります。

(iv) オンライン申請は、アプリの画面上の案内にしたがって実施していただくことになります。

(v) 紙で申請されるか、オンラインで申請されるかは、申請者の皆様にお選びいただけます。したがってこれまでどおり、紙の旅券申請書に必要事項を記入し、当館窓口に来館してご申請になる方法も引き続き可能です。

【外務省ウェブサイト】

https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/page22_004039.html

●申請手続きの変更【今一度確認ください！】

(i) 戸籍謄本について

新しく旅券を申請する場合や、旅券面の記載事項に変更がある場合は、戸籍抄本ではなく、戸籍謄本をご用意ください。3 月 27 日以降、戸籍抄本での申請はできなくなりました。

(ii) 査証欄（ビザページ）が残り少なくなった場合

旅券の査証欄を追加する増補制度が廃止されました。旅券の査証欄が残り少なくなりましたら、新しい旅券を申請してください。

(iii) 新しい旅券の速やかな受け取りについて

新しい旅券が発行され、6 か月以内に受け取られない場合、新しい旅券は失効します。失効後 5 年以内に次の旅券を申請する際は、手数料の額が通常よりも高くなります

（※2023 年 3 月 27 日以降に申請された旅券が 6 か月以内に受け取られずに失効した場合に適用されます）。

(iv) 申請書の様式変更について

オンライン申請ではなく、紙の申請書を使い窓口で申請される場合、2023 年 3 月 27 日から、旅券発給等のための申請書の様式が変更されています。同日以降の申請では、古い様式の申請書では受付できません。ご自宅で印刷可能な新様式のダウンロード申

請書は以下のウェブサイトからご利用いただけます。

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/toko/passport/download/top.html>

(3) 領事出張サービス実施予定のお知らせ (NB 州及び PEI 州)

6 月、NB 州モンクトンと PEI 州シャーロットタウンで領事出張サービスを実施する予定です。

NB 州モンクトン分のご利用申し込みは締め切りしましたが、PEI 州シャーロットタウン分のご利用申し込みはまだ受け付けています (5 月 31 日申し込み締め切り)。

【実施予定日時】

●NB 州モンクトン

6 月 7 日 (水) 10 時～12 時、13 時～15 時

●PEI 州シャーロットタウン

6 月 21 日 (水) 10 時 30 分～14 時

詳しくは当館ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/oneday.html>

(4) 子どもクラブからのお知らせ

子どもクラブは日系の親子が日本語で交流できるドロップインのプレイグループで、各自お弁当持参で集まっています。子供の年齢が近い親同士の出会いの場でもあります。プレママさんもパパさんも、お気軽にご参加ください！

開催日：毎月第 2・第 4 金曜日 ※天候や祝祭日の関係で変更になる場合があります。

時間：11 時～15 時 (時間内であれば何時からでも参加可)

場所：モントリオール日系文化会館

参加費：1 ドル

ご興味のある方は、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

info.mtlkodomoclub@gmail.com

(5) モントリオール日本語センターからのお知らせ

●モントリオール日本語センター バザー開催 外部出店者募集のお知らせ

日時：6 月 17 日 (土) 10 時～13 時

場所：College Jean-de-Brebeuf カフェテリア

今回のバザーは外部の出店も受け付けますので、是非ご参加ください。

出店申し込み締め切りは 6 月 9 日 (金) とさせていただきます。

今回のバザーの収益金は、センターの行事運営や教材購入などに当てさせていただきます。

ご興味のある方は、以下の項目をご記入の上、下記メールアドレスまでご連絡ください。ご応募を受け取りましたら、担当者より折り返しご連絡させていただきます。

info@japanesecenter.com

・出店者名：（グループで出店される場合は、代表者のお名前とその連絡先をご記入ください。）

・連絡先 E-mail：

・出店内容：（例：手作りクッキー販売、子供服販売、古本販売、等々）

ご質問のある方は、下記メールアドレスまでご連絡ください。

info@japanesecenter.com

バザーの詳細については当校の Facebook にて随時更新していきますので、そちらも併せてご覧ください。

<https://bit.ly/3CSutgL>

皆様のご参加・ご協力を、心よりお待ちしております。

5 広報・文化だより

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（culture@mt.mofa.go.jp）までお知らせください。毎月 10 日までに原稿をいただければ同月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

（1）カナダ巡回日本映画祭（モントリオール）

アジア月間のイベントとして、国際交流基金トロントとの共催で、カナダ巡回日本映画祭を開催します。入場無料、先着順で御入場いただけます。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/pdf/2023JFF_MTL_Poster.pdf

場所：Cinematheque quebecoise

335 De Maisonneuve Blvd East, Montreal, QC

<https://www.cinematheque.qc.ca/en/cycles/japanese-film-festival/>

（ア）日時：5 月 27 日（土）17 時 30 分

「Herbes flottantes（浮草）」（1959／119 分／フランス語字幕）

監督：小津安二郎 出演：中村鴈治郎、京マチ子、若尾文子ほか

（イ）日時：5 月 28 日（日）14 時

「First Gentleman（総理の夫）」（2021／121 分／英語字幕）

監督：河合勇人 出演：田中圭、中谷美紀ほか

(2) 当館は、以下の SNS 公式アカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

●フェイスブック

<https://www.facebook.com/JapanConsMontreal>

●ツイッター

<https://twitter.com/JaponMontreal>

●YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UC5Fc52skP5w8otfowcN30ag>

(3) 文化庁主催第 8 回 JLPP 翻訳コンクール

日本書籍翻訳・普及事業の一環として、日本の現代文学作品の優れた翻訳家を発掘・育成することを目的に第 8 回 JLPP 翻訳コンクールが開催されます。

<https://www.jlpp.go.jp/competition8/index.html>

(4) 日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様へのご参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんのでご了承ください。

●Festival Acces Asie

アジア月間である 5 月に Festival Acces Asie が開催中です。以下を含む様々な日本関連イベントが行われます。

https://accesasie.com/programmation/?_annee=2023

(ア)「Bijin 美人: Japanese Beauty」展（無料）

期間：6 月 23 日（金）まで（月曜～金曜・9 時～17 時）

場所：Conseil des arts de Montreal

1210 R. Sherbrooke E, Montreal

<https://accesasie.com/en/event/expo-bijin-japanese-beauty/>

(イ) 嵐太鼓公演（無料）

Festival Acces Asie 閉幕イベントで嵐太鼓が公演します。

日時：5 月 28 日（日）14 時～17 時

場所：Jardins Gamelin

1500 Rue Berri, Montreal

<https://accesasie.com/evenement/evenement-de-cloture-2023/>

●Festival de contes pour la jeunesse

市内各所にて、様々な年齢を対象にしたストーリーテリング、ワークショップ等が行われます。日系人の作家、Pascal Mitsuru Gueran 氏による日本に関するお話の回もあります。

期間：5月28日（日）まで

<http://festilou.com/festilou/>

●モントリオール日系文化会館バザー

日時：6月3日（土）11時～17時

場所：モントリオール日系文化会館

8155 rue Rousselot, Montreal

●O Japanese Tea 主催：茶道デモンストレーション

日時：6月4日（日）、6月18日（日）12時、13時45分（各60分）

場所：Shab Studio

345 Rue De La Gauchetiere 0, Suite B, Montreal

https://www.facebook.com/events/507934618157582/539092535041790/?active_tab=bout

●Yatai MTL

当館も JNTO トロント事務所と共同でブース出展（6月9日・10日のみ）します。

期間：6月8日（木）～11日（日）

場所：Le Bassin Peel

1055 rue de la Commune Ouest, Montreal

<https://www.yataimtl.com/>

●いけばなインターナショナルモントリオール支部定期華道展

日時：6月10日（土）及び11日（日）10時～18時

場所：モントリオール市立植物園日本館

4101 rue Sherbrooke Est, Montreal

●抹茶と和菓子（最中）づくりのワークショップ

日時：6月17日（土）12時、14時（各60分）

場所：Sumi Dojo

3479 Boulevard Saint-Laurent, Montreal

https://www.facebook.com/events/257863806584822/257865236584679/?active_tab=bout

●国際交流基金主催：鈴木清順監督作品特集35ミリフィルム映画上映（有料）

場所：Cinematheque quebecoise

335 De Maisonneuve Blvd East, Montreal, QC

* 全て英語字幕付き上映です。

（ア）6月20日（火）18時「Satan's Town（悪魔の街、1956）」

- (イ) 6月22日(木) 18時「Love Letter (ラブレター、1959)」
- (ウ) 6月25日(日) 16時「Carmen from Kawachi (川内カルメン、1966)」
- (エ) 6月26日(月) 20時10分「Tokyo Drifter (東京流れ者、1966)」
- (オ) 6月28日(水) 18時「A Tale of Sorrow and Sadness (悲愁物語、1977)」
- (カ) 7月1日(土) 20時「Kagero-za (陽炎座、1981)」

●「JFF+ INDEPENDENT CINEMA」

国際交流基金が、日本各地のミニシアター支配人から推薦を受けた日本映画を無料ストリーミング配信しています。

期間：6月15日(木)まで

「アルプススタンドのはしの方」「戦慄せしめよ」「夜を走る」

「だってしょうがないじゃない」「距ててて」「夢は牛のお医者さん」

視聴方法等、詳細はこちらからご確認ください。

<https://jff.jp/go.jp/watch/independent-cinema/film-lineup/>

●ランゲージ・エクステンジ (仏語ー日本語)

ラヴァル大学院生が主催するオンライン・ランゲージ・エクステンジが、毎週土曜日朝8時(カナダ東部時間)から開催されています。

<https://www.meetup.com/en-AU/canasian-station/>

問い合わせ先：Pascal Paradis 氏 (pascal.paradis.2@ulaval.ca)

●国際交流基金トロント日本文化センター

日本語教師向けにワークショップや情報交換会(オンライン)が随時開催されています。

<https://jftor.org/language/teachers/>

E-libraryで日本の本、マンガや雑誌などを読むことができます。

<https://jf.overdrive.com/>

その他、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。

<https://jftor.org/>

6 当館管轄5州の政治

(1) ケベック(QC)州

・4月6日、1998年以来最大規模の雨水により、州内各地で街路樹などが倒れ、停電発生。ピーク時には100万世帯以上で停電、うち半数がモントリオール圏。12日、1週間経っても4500世帯(うちモントリオール圏3100世帯)で停電が続く。

・4月6日、シャレット州環境大臣は、水資源使用料を5年毎に見直すことを定めた法案20を州議会に提出。法案には他に水資源保全のための基金「ブルーファンド」創設、使い捨てボトルの禁止が含まれる。

・4月11日、ピエール＝エリオット・トルドー財団（所在地モンリオール）で、理事会とCEOが同時に辞任。同財団は、2016年に中国政府の政治顧問 Zhang Bin と中国の実業家・慈善家 Niu Gensheng から20万加ドルの寄付を受け取っていたとの2月のGlobe and Mail 紙の報道を受けて以来、中国による政治介入疑惑をめぐる議論の的となってきた。14日、同財団は、問題の寄付金（実際の額は14万加ドルであったとのこと）を返還したと発表。

・4月13日、ケベック独立への熱は若い世代には引き継がれず。Environics Institute が行ったケベック独立に関する世論調査によると、18～34歳の有権者のうち、「独立派」と「連邦派」は2002年（最後の州民投票から7年後）にはそれぞれ25%と9%であったのに対し、2023年には12%と24%に逆転。

・4月18日、州統計局によると、2022年の州の移民受け入れ数は史上最多の15万人となった。一時就労、留学、亡命等の非永住者数が大きく増加し、永住者数もコロナ禍で受け入れが遅れていた分増加。

・4月20日、与党ケベック未来連合(CAQ)は、過去2回の総選挙で公約としてきた、第3の自動車連絡道建設計画を撤回。州政府は、ケベック市とレヴィ市を結ぶ第3の連絡道となる川底トンネルプロジェクトについて、自動車専用トンネルを断念し、公共交通専用トンネル1本のみを建設すると発表。ギルボ州交通大臣は、テレワークの普及で両岸の往来が減少したことを示す新たなデータにもとづいた決定と説明。新たな計画での建設費用やトンネルを通る交通機関の種類は明らかにせず。28日、SOMが両岸地域の有権者を対象に行った世論調査によると、前回総選挙でCAQに投票したが次回総選挙ではCAQに投票しないと回答した人は50%、公共交通専用トンネル計画に反対であると回答した人は71%であった。どちらの数字もCAQ公約を強く支持してきたレヴィ市のある南対岸でより高く、それぞれ62%と87%。

・4月20～28日、マルシャン・ケベック市長は、フランス・ベルギーを訪問。パリでは、ケベック市とパリ市との間の、言語、文化、モビリティ、経済、エコロジー移行等を含む協力協定を10年ぶりに更新。また、パリ＝イル＝ド＝フランス商工会議所(CCI)で行った講演では、(ケベック市で進行中の)路面電車のようなプロジェクトはビジネス機会を増やすと仏企業にアピール。さらに、プラント・モンリオール市長とともに、国際フランス語圏市長会(AIMF)事務局会議に出席。

・4月20日、ケベック・ラブラドル先住民議会(APNQL)は、仏語保護に関する州法96に反対するため法廷で争うと発表。主な争点は、同法が英語系CEGEPに通う全ての学生に「仏語で3科目」または「仏語の授業」3コースの履修を義務付けており、先住民言語とともに英語を主要言語とする地域の先住民学生にさらなる「障壁」となること。

・4月24～30日、プラント・モンリオール市長は、ヨーロッパを訪問。ロンドンではカーン市長との面会や「ゼロエミッションゾーン」の視察等を、ウィーンでは「ビオトープシティ」を視察。パリではイダルゴ市長と面会し、モンリオール市とパリ市の交流強化を目指す協力協定を更新。

・4月28日、メンディチノ連邦公安大臣が、中国の「警察署」と疑われる州内の移民支

援組織 2 つ (Service a la Famille Chinoise du grand Montreal, Centre Sino Quebec de la Rive-Sud) は閉鎖されたと発言したのに対し、同組織代表は、連邦警察 (RCMP) から閉鎖の要請は受けていない、限られた資金で活動継続中であるとコメント。同月 4 日には、州雇用・社会連帯省は、2018 年より 200 万加ドルを支出してきた同組織への財政支援を打ち切ると発表していた。

(2) ニューファンドランド・ラブラドル (NL) 州

- ・ 4 月 1 日、市内通話でも 709 の市外局番ダイヤル義務化が開始。メンタルヘルスと自殺予防のための新たな専門ダイヤル「988」が 11 月よりカナダ全土で導入されるのに備えての変更。

- ・ 4 月 6 日、メモリアル大学理事会は、ティモンズ学長を解任。ティモンズ氏は、自身が先住民出身であるとの過去の主張を疑問視する報道を受け、3 月から休職していた。

- ・ 4 月 30 日、連邦政府は、州が 2022 年に予定より数ヶ月早く就労目的の移民枠を全て埋めたことを受け、2023 年の枠を 2 倍超の 3050 人とする旨決定。野党や移民支援団体は、学校や住宅へのアクセス、地方部における公共交通機関の欠如、移民が海外で取得した資格を州が認めていない等の問題を懸念。

(3) プリンスエドワードアイランド (PEI) 州

- ・ 4 月 3 日、州議会選挙実施。キング党首率いる進歩保守党 (PC) が圧勝し再び政権を獲得。各党議席獲得数は以下の通り (総数 27 議席、カッコ内は改選前比)：PC 22 (+7)，自由党 4 (-1)，緑の党 2 (-6)。

- ・ 4 月 6 日、キャメロン州自由党党首が辞任。総選挙の結果、自由党は 3 議席を獲得して第一野党となったが、キャメロン氏自身はビーヴァン＝ベイカー緑の党党首が勝利した選挙区で敗退した。

- ・ 4 月 14 日、第二次キング政権が発足。閣僚は 10 人から 12 人に増加。5 人が初入閣し、3 人が閣僚落ち。

- ・ 4 月 14 日、PEI 大学は、教職員を代表する組合と暫定合意に達し、17 日から講義が再開されると発表。

- ・ 4 月 24 日、州の移民局と保健局によると、3 月にドバイで採用活動を実施した結果、2023～2024 年初めにかけて 31 人の看護師が州に到着する可能性があるとのこと。

(4) ノバスコシア (NS) 州

- ・ 4 月 21 日、連邦政府と同州に 13 ある Mi'kmaq 先住民の代表は、連邦の医療サービス移管に関する覚書を締結。連邦・州政府と Mi'kmaq は、今後数年間かけてサービス移管の枠組み合意に向けて取り組む。最終的には Mi'kmaq 運営による保健当局「Tajikeimik」が Mi'kmaq 向けの医療サービスを提供することを目指す。

(5) ニューブランズウィック (NB) 州

・4月15日、モンクトン大学理事会は、最近、著名人を含む数百人が大学の名称変更を求める署名をしたことを受け、現状把握のため2人の担当調査官を任命すると発表。「モンクトン」の名の元となったイギリス人行政官ロバート・モンクトンは、18世紀のアカディア人追放に関わった人物とされる。

・4月24日、3選挙区で州補欠選挙実施の結果、自由党のホルト党首が議席を獲得。他2選挙区でも自由党候補が勝利し、州議会の各党議席数は与党 PC49, 自由党 16 緑の党 3 無所属 1（総議席数 49）となる。

7 当館管轄 5 州の経済

(1) QC 州

・4月3日、ラモンターニュ州農業・漁業・食料大臣は、3月初旬の日本訪問を振り返り、日本のコストコがペリカンのカヤック、ロメオのジン、オリメルの豚肉、メープルシロップ等のケベック産品を販売していることに非常に感銘を受けたと説明。日本国内に31店舗を展開するコストコにより多くのケベック産品を取り扱ってもらう可能性を探るため、日本で会った同社幹部の州来訪を調整中とのこと。

・4月3日、鉱山企業 IOC（三菱商事が出資）の Metallos 組合員は、初年度 8.9%賃上げや署名時の 2500 加ドルのボーナス支給等を含む新たな労働協約を承認。

・4月4日、連邦政府は、デイヴィ造船所（所在地レヴィ）を第3の国家造船戦略パートナーに公式に指定（他2造船所は NS 州のアーヴィングと BC 州のシースパン）、極地用を含む砕氷船7隻とフェリー2隻の建造に向け同造船所と交渉を始めると発表。契約額は 85 億加ドル規模となる見込み。州政府は、同造船所の近代化に必要な 8.4 億加ドルのうち 5.2 億加ドルを支出する。

・4月12日、ケベック港やローレンシャン銀行がサイバー攻撃（サーバをクラッシュさせる DoS 攻撃）を受けてウェブサイトがダウン。自称・親ロシア派ハッカー集団「NoName057」が犯行を主張。13日、ハイドロケベック (HQ) も同様のサイバー攻撃を受ける。

・4月13日、2月に撤退を発表したメディカゴについて、シャンパーニュ連邦イノベーション・科学・産業大臣は、同社の買い手についてはコメントせずも、ラヴァル大学が同社施設を使う可能性を示唆。25日、マルシャン・ケベック市長は、最終的には三菱が承認することとした上で、メディカゴは単独の買い手ではなくイノベーションハブが引き継ぐことになるであろう旨発言。

・4月14日、豚肉加工大手のオリメルは、州にある4つの食肉処理施設のうち Vallee-Jonction 施設を12月で閉鎖すると発表。施設の老朽化と人手不足が理由。1000人の雇用が失われる。

・4月17日、電気バス・トラック製造の Lion は、バッテリーパック組立工場をミラベルに開設。

・4月18日、ビデオゲーム制作のサイバーコネクトツーは、7月にモンリオールスタジオを閉鎖すると発表。

・4月18日、養豚農家と豚肉加工業者は、業界の危機を乗り切るための新たな価格設定に合意。この合意により、養豚農家は加工業者に対し、米国の豚肉卸売価格（カットアウト）の 85%で販売する（2025 年 4 月まで段階的に引き上げられ 88%となる予定）。過去

10 年間の市場価格と比べると豚 1 頭あたり 12.50 加ドルの値下げとなる。その代わりに、加工業者はオンタリオ州産豚の買取を停止する。

・4 月 18 日、ケベック商工会議所 (CCIQ) は、地元経済発展のために、ケベックシティ・トロント間をつなぐ高頻度列車 (HFT/TGF) ではなく高速列車 (TGV) 建設を連邦政府に求める。

・4 月 21 日、州政府は、航空宇宙産業の二酸化炭素排出量削減を目的とした 4 つの新規プロジェクトに 5000 万加ドルを支出。うち 800 万加ドルは、フライング・ホエールズ (Flying Whales) ケベックとタレス (Thales) カナダ貨物飛行船の制御システム開発向け。

・4 月 25 日、フィッツギボン州経済・イノベーション・エネルギー大臣は、今後の中国からの投資の可能性に対して慎重な姿勢。仮に中国企業が州内の鉱山の試掘権を取得しようとしたら「アレルギー反応を起こすだろう、受け入れるかどうか分からない、政治的な問題かと聞かれればその通りである」と発言。

・4 月 27 日、Alliance Magnesium (丸紅が出資) は、社名を Tergeo に変更。同社はアスベスト廃棄物からマグネシウム成分を抽出している。

(2) 大西洋諸州

・4 月 15 日、連邦漁業省は、資源保全と安全面の懸念を理由に、NS・NB 州のウナギ稚魚漁を 45 日間停止すると発表。最近、密漁された稚魚の押収や、漁場付近で武器による暴力事件が頻発していた。

(3) NL 州

・4 月 12 日、ウィリアムズ・NL ハイδρο CEO は、ラブラドルとニューファンドランド島を結ぶ送電線に 700MW の電力を流す最終テストが 2 回目で成功し、マスカラットフォールズ水力発電プロジェクトは完成したと考えると発表。18 日、発表を受けフューリー州首相は、慎重ながらも楽観視していると発言。プロジェクトは大幅なコスト超過・工期遅れが続き、州政府は電気料金の高騰防止策に取り組み中。

・4 月 6 日、10 日に開始予定のズワイガニ漁を控え、州取引価格設定パネルは、加工業者が漁師に支払うズワイガニ買取価格を 1 パ운드 2.2 加ドルとすると決定。州沿岸漁師を代表する組合 FFAW は決定に猛反発、組合員は漁に出ないと発表。州のズワイガニ価格は 2022 年シーズン初めに記録的高値 7.6 加ドルをつけた後、下落が続いていた。

・4 月 19 日、カルガリーの石油大手サンコーエナジー (Suncor Energy) は、2023 年初めとしていたテラ・ノヴァ (Terra Nova) オフショア油田の生産再開をさらに延期。スペインで延命工事を受け 2 月に州に戻った浮体式生産貯蔵積出設備 (FPSO) に問題があるとのこと、新たな再開予定は未定。

(4) PEI 州

・4 月 25 日、州の温室効果ガス排出量は、2021 年に過去 8 年間で最高水準となる 1627 キロトンに達する。州は 2030 年までに年間排出量 1200 キロトン以下、2040 年までにネットゼロを目指している。

・4 月 27 日、州政府は、電気スクールバスを自然災害発生時に移動式バッテリーとして使う「V2G」テクノロジーの国内初のパイロットプロジェクトを発表。バスは QC 州の Lion 製。早ければ今秋より、災害時の避難所として使用する州全域のコミュニティセンターのインフラ整備を順次進める予定。

(5) NS 州

・4月5日、大西洋州をつなぐクリーンエネルギー網「アトランティックループ」プロジェクトについて、ルブラン連邦インフラ大臣が2023年半ばにはQC・NS・NB州の間で何らかの基本合意に達するであろうと発言したのに対し、ヒューストン州首相は、連邦政府が具体的な支出を提案しない限りプロジェクトの実現は楽観視していないため、州は独自に風力発電開発を推進し、原子力を含む代替エネルギーを検討する等、グリーンエネルギーへの移行に努めている旨発言。

・4月12日、州政府は、Bear Head Energy のケーブブレトン島 Point Tupper のグリーン水素・アンモニア製造施設建設を許可。近隣の湖から引いた水を、風力による電力で電気分解して水素を製造、それをアンモニアに変換して輸出する計画。2月のEverWindに次いで2つ目のグリーン水素プロジェクト。2024年着工、2027年生産開始を目指す。

・4月12日、ハリファックス港も DoS 攻撃を受けてウェブサイトがダウン。同港によると、内部システムは正常であり港湾業務も通常通り。

・4月26日、潮力発電開発企業 Sustainable Marine Energy Canada は、ファンディ湾 Grand Passage での発電事業から撤退すると発表。連邦漁業海洋省が同社の水平タービンが海洋生物に害を与える可能性が「高い」とし、事業継続に必要な認可が得られないとのこと。ヒューストン州首相は、グリーンエネルギーへの移行の取り組みに対する連邦政府の無関心を非難。業界団体は、州と連邦で規制整備に差があるせいで州内で進行中の他の潮力発電プロジェクトの先行きも不透明になっていると指摘。

(6) NB 州

・4月19日、2023年の州のメープルシロップ収穫量は、記録的な豊作だった2022年と比べ激減する見込み。樹液の生成に必要な気候条件がそろわない日が続いたとのこと。州は150のメープルシロップ農家を数え、生産量はQC、米バーモント州、ニューヨーク州に次いで世界第4位。

[在モントリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン読者登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なさらないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

emagazine@mt.mofa.go.jp

○メールマガジン読者登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、

そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下の URL をクリックすると閲覧いただけます。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ (www.kantei.go.jp)

外務省ホームページ (www.mofa.go.jp/mofaj/)

在カナダ日本国大使館ホームページ (www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館ホームページ (https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html)

当館 Facebook (www.facebook.com/JapanConsMontreal)

当館 Twitter : @JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モンリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

(emagazine@mt.mofa.go.jp) までご相談ください。

■-----■